

2021 年度・二子玉川オンライン防災塾

目黒星美学園中学高等学校 P・F・F プロジェクト

(オープニング映像)

皆さん、こんにちは。目黒星美学園中学高等学校 P・F・F プロジェクトです。

今日は、二子玉川オンライン防災塾で、一緒に防災について考えていきましょう。

私たちのプロジェクト名、PFF とは prepare for the future の略です。

災害が起こる未来はいつ訪れるか分かりません。このプロジェクト名には、「その時の今を守るために、今準備をする」という意味が込められています。

防災というと、面倒とか、災害を連想して怖いとか、ネガティブなイメージを持たれがちです。そのため、想像が広がらなかつたり、ついつい動きたくない気持ちになってしまいます。

でも実際は、防災とは前向きに行うことでこそ、視野が広がり、選択肢が増え、備えることが楽しくなってきます。「楽しく防災する」、これが私たちが提案する「新感覚防災」です。

そこで今回の防災塾では、一緒に前向きに防災に取り組むための工夫を考えてみました。このマークが出てきたら、動画を止めてぜひ考えたり、試したりしてみてください。日常の中で防災に取り組むためのヒントになることがあれば、嬉しいです。

「1. 避難って何だろう？～命と安全を守る選択肢を増やそう」

「避難してください！」「避難してください！」

皆さんは、繰り返しこう呼びかけられたら、どんな気持ちになりますか。

「避難所に行かなければ」と焦った気持ちになるでしょうか。「どうせ大丈夫」と軽く考えってしまうでしょうか。それとも、落ち着いて行動を考えようと思えますか。

実は避難とは「危険を避けて安全を確保すること」という意味なんです。その場にいると危ない場合は移動しますが、安全な場合はその場に留まることも避難になります。

でも、ついつい「避難所に行かなければ！」「とにかくどこかに行かなければ！」と焦る気持ちになりがちですよね。そこで私たちの学校では、「動く避難・動かない避難」というキ

ヤッチフレーズを考えました。

(BOUSAI ミニシアター「災害時でもできる人はステイホーム！」)

ではここで、昨年中学1年生が作った防災ミニシアター、ご覧ください。

皆さんは、災害が起きたらどこに避難しますか？

「えーっと、避難所」「公園」

そう思っている人が多いかもしれませんが、首都直下地震では避難所に入れない人が約400万人いると言われていました。

「えっ、うそっ、そんなに」

だからたくさんの方が在宅避難、つまりお家で避難することになるのです。

「しかし!」「はいっ!」

家が崩れてしまったり、今いる場所から家が遠かったり、

避難所しか避難する場所がない人がいるかもしれません。「たしかにー」

ですから、家で避難できる人は「家で避難する」ということが大事になってきます。皆さん、避難する場所は避難所だけではありません。避難所はあくまでも選択肢の1つです。

地震のときも家で過ごせる人は、ステイ・ホームしましょう。

それに意外と家の方が、安心じゃないですか？気楽じゃないですか？「なるほどー」

実際に起こる前に、家族で疑似ミニキャンプしてみませんか？

これまでの災害では「避難所に行かなければ」と、自宅が安全な人までも避難所に駆けつけてしまい、人口が少ない地域でも避難所がパンクするということが度々起きていました。二子玉川地区の人口はおよそ2万8000人、それに対して地震発生時の避難所は3カ所です。想像してみてください。皆が「災害時は避難所に行こう」と思っていたら……大変なことになりますね。避難所は自宅に住めなくなってしまった人のための一時的な生活の場所です。

そこで、今、注目のキーワードがこちら。災害時に避難できる場所を複数考えておく「分散避難」です。

台風や大雨は予め予想できるので、ホテルや安全な地域に車で移動するといったアイデアも良いかもしれません。一方、地震は予測できません。首都直下地震のときは多くの人が自宅で生活を続ける「在宅避難」をすることが予想されます。分散避難を考えることは、命と安全を守る選択肢を増やすことになります。

「おうちでやってみよう！分散避難、命と安全を守る選択肢を増やそう」

分散避難はコロナ禍では、密を避けるためにも大切です。ここでは、分散避難ができる場所

を考えてみましょう。自宅が安全な場合は、在宅避難が基本ですが、危ない場合は迷わずに安全な場所に避難することが必要です。また避難先が本当に安全かも考えてみてください。

それでは、ここで、動画を止めて考えてみてください。皆さんはいくつ「命を守る選択肢」を思いつきますか。

「2. 『防災かいたく力』を身につけよう！」

(BOUSAI ミニシアター「防災を始めよう」)

「ポー！」

「パキン！」

「ペリッ！」「できた！」「いただきます！」

「お湯がなかったら、はしがなかったらカップラーメンは食べられない」

「それと同じで災害も防災と心構えが必要」

「避難、準備してなかった～私も食べたーい」「あのとき準備しておいて良かった。おいしい」「あなたはどっち？」

「さあ、あなたも防災始めましょう」

防災と聞くと「面倒で大変そう」、とついつい思いがちですが、ちょっとした工夫や視点を変えるだけでも、防災力をアップすることができます。そこで私たちは、「防災かいたく力」と名付けて、伸ばしたい3つの力を考えました。

まず1つ目はこちら！自宅を災害時でも安心できる安全な場所にしていく「改宅力」です。

「改宅力」には、「災害が起きる前に家を安全な場所にする力」と、「家にあるもので工夫して災害を乗り越える力」という2つの意味を込めています。

まずは、地震が起きた時にケガをしないように自宅を改善していくことが大切です。また災害に備えて様々なものを備蓄しなければ！と考えるとハードルが上がりますが、「自宅にあるものを使って何日工夫できるか」という視点に変えるだけで、防災の見方がちょっと変わって来ます。

もしこの部屋で夜寝ているときに大きな地震が起きたらどんなことが起きるでしょうか。考えてみてください。(…考える時間…)

色々なものが飛んできそうですね。ではどうすれば、部屋を安全にして、改宅力をアップできるでしょうか？ 例えば、ちょっと手間ですが、机を片付けるだけでもいざというとき、ぶつかってケガをするリスクを下げられます。これは、私が毎日心がけていることですが、

寝るときは忘れずにカーテンを閉めるようにしています。「カーテンを閉めることが防災になる！」というイメージはあまりないかもしれませんが、窓ガラスが割れた時にケガをするリスクを減らすことができます。

ここで私が実践している工夫を紹介します。地震のときに慌てて床を歩くとケガをするかもしれません。そこで枕もとには、古くなった運動靴を置いています。コンサート用のペンライトは以前、実際に停電した時に役立ちました。好きなアイドルのペンライトなので心強かったです。こんな風に既にあるものを防災にも役立てています。

100円ショップに行ったときに防災に役立つものはないかなと探してみるのもおすすめです。

さて、こちらは震度5強の地震のあとに撮影された写真です。

このお宅では、東日本大震災の経験を踏まえて、食器棚を固定していたそうなのですが、食器が飛び出さない工夫をするのを忘れていたため、こんな状況になってしまいました。

この失敗から、このお宅では、100円ショップで滑り止めのマットを買ってきて、すぐに食器の下に敷いたそうです。他にもちょっとした工夫で、倒れてくるまでの時間を延ばしたり、落ちてくる勢いを抑えたりすることができます。

また私の祖母の家では、家を建てる時に本棚を作りつけにしたり、扉に金具をつけたり、補強工事をしたりと様々な工夫をして、改宅力をアップさせたそうです。

最初の一步は面倒かもしれませんが、未来の自分のためにお家の中を見直して、改宅力をアップさせませんか。

「おうちでやってみよう！おうちハザードマップを考えよう」

皆さんのおうちで安全な場所、危険な場所はどこですか？ どうすればより安全にできるでしょうか。写真を撮ったり、イラストを描いて、考えてみるのもおすすめです。

それではここで、夜寝る場所に寝転がって、大きな地震が来たらどうなるか考えてみましょう。飛んでくるものや倒れてくるものはありませんか。どうすれば、安全な部屋にできるでしょうか。小さなお子さんがいる場合は、ぜひ子ども目線でも確認してみてください。

「3.11 失敗からのワンポイント・アドバイスー大きな地震が起きたら、もと通りに片づけない」

ー3月の末に実家に帰って、1週間ぐらい片付けの手伝い、自分の部屋を含めて片付けをしました。ところが東京に戻ってきてから数日後、4月7日の夜に大きな余震が発生しました。その結果、私の実家のあるエリアは3.11の時の揺れよりも余震の方が大きかったので、私の実家は半壊して、私が片付けたものは元に戻っていたので、すべてまた落ちると

いう、そういった経験しました。

大きな地震の後には余震が続きます。最初の地震で落ちたものを、もとに戻すとまた落ちてくるかもしれません。大きな地震のあとは余震を前提とした片づけをしましょう。

2つ目の「かいたく力」がこちら。

ここでクイズです。この中で災害時に、非常食になるものはどれでしょうか。

答えは……、全部です。災害に備えて1週間分の食料は、用意しておくことが推奨されています。

1週間分、と聞くとハードルが高く感じるかもしれませんが、今、ローリングストック・日常備蓄という考えが広まっています。普段から少し多めに食材を買って、期限に近いものから消費し、使った分だけ買い足すのがローリングストックです。私たちはローリングストックを実践することを、普段の食卓で食料を回していく力、「回卓力」と名付けました。

それではここで、ローリングストックを実践している先生にインタビューしてみようと思います。

まず、ローリングストックをする上で失敗したことはありますか。

—はい。日常備蓄を始めた頃は、色んな失敗をしました。例えば、期限の長さだけを気にして、普段食べ慣れていないものをたくさん買ってしまっていたので、いざ期限が来たときに食べてみたら口に合わなかったということがありました。あと張り切って期限を管理しようと思って備蓄ノートを作ったんですけども、私、元々面倒くさがり屋なので、1ページ目で挫折したことが、たぶん5回くらいあります。あと、これは私の両親の経験談なんですけれども、1カ所に水を備蓄、まとめて備蓄していたところ、東日本大震災の時に上から物が落ちてきてしまって、取り出すのに非常に苦労したという体験談を聞きました。

失敗から学ぶことは多いですね。では、ローリングストックのコツを教えてください。

—はい。今心がけていることが3つあります。

まず1つ目が「期限が来るのが楽しみになる食品を選ぶ」ということです。よく聞くのが、気づいたらうっかり期限が切れていたというのが「備蓄あるある」なんですけれども、私は逆に「早く期限が来ないかなー」と楽しみにしている状態です。

2つ目は、1つ目のコツとも被るんですけども、ローリングストック自体をどうやったら楽しく続けられるかという工夫をしています。最近ではコロナ禍で、なかなか地元に戻るができないので、地元の美味しいものを取り寄せて「お取り寄せ備蓄」を楽しんで

います。地元の応援にもなるので、一石二鳥だなと思っています。

3つ目はこれは私の場合は、なんですけれども、自分の一定量を決めて、ざっくり管理するというのがローリングストックの長続きのコツでした。具体的には、いくつかのケースを準備して、いつもこのケースの中にはある程度の食料が入っているという状態にしています。

このケースには大体の期限の目安を書いておいて、何か買ってきたら大体の期限の箱の中に入れていく、で、期限が近いものから消費していくということをしています。

両親の失敗談を聞いて、空いてるスペースを使っただけの分散備蓄、すき間備蓄を実践しています。こういったところは、一度仕舞ってしまうと、取り出して期限を確認する、というのはなかなか手間なので、マジックペンとマスキングテープを使って期限を書いておくということをしています。こうすると一目で分かるので、とても便利で、私も続けられています。

こんな風にするとローリングストックが楽しく続けられますね。

「おうちでやってみよう！お家の回卓力をチェックしよう！」

「備蓄」というと防災用の特別な食料をイメージしがちですが、最初のクイズに出てきた食べ物も、回卓力の視点からはすべて非常時に役立つ食料になります。私は冷蔵庫の中の食品を見落としていました。実は一般のご家庭では、買い置きの食料が1週間から2週間分あると言われていています。

ではここで皆さん、本当の回卓力をチェックしてみましょう。冷蔵庫を含めて、お家にとどのぐらいの食料があるでしょうか。何日くらい過ごせそうですか。考えてみてください。普段使っているものが災害時にも役立ちます。

食べ物ではありませんが、阪神淡路大震災を経験した私の家族は、当時ラップがとても役立つと言っていました。お家にラップがどのくらいあるかも、ぜひ確認してみてください。

3つ目の「かいたく力」はこちら。

災害時に重要になってくるのは、モノばかりではありません。正しい情報もとても重要になってきます。そこで、私たちは「情報を正しく理解して、正しい情報を選択する力」を身につけていきたいと思います。

災害時は SNS などたくさんさんのデマや誤った情報が流れます。また、そのときは正しくても古くなった情報が残ってしまうこともあります。そのために1つの大事なキーワードを紹介します。それは「だいふく」です。皆さんは、「だいふく」が何の略か分かりますか。だいふくの「だ」、「誰が言ってるの?」、「い」、「いつ言ったの?」、「ふく」、「複数の情報を確かめた?」この「だいふく」を覚えて、情報のカイトク力を高めていきましょう。

「3. 11 失敗からのワンポイント・アドバイス」

皆さん、災害用伝言ダイヤルの番号は覚えていますか。「いないときには171」と覚えてください。

—東日本大震災が発生した後、家族と連絡が取れなかったのが、とっさにこの「171」を思い出してメッセージを吹き込みました。ところが後日分かったのが、きちんと約束していなかったのが、私の家族は誰一人私のメッセージを聞いてくれませんでした。災害時の連絡手段は、家族と具体的に事前に約束しましょう。

皆さんにもぜひ、3つの「防災かいたく力」を意識していただけると嬉しいです。

「3. 体験談を聞いてみよう！」

皆さんは2019年10月に発生した台風19号を覚えていますか。このパートでは、最初に、世田谷区に住んでいて、在宅避難を経験した生徒と、多摩川の近くに住んでいて避難所に避難した生徒の体験談を紹介します。

(防災に関心を持ったきっかけは?)

—両親が阪神淡路大震災の被害に遭って、父と母はその経験をもう一度したくないと思っていて、地震がちょっとでも起きた時はすぐに備えたりしていました。

(2019年10月に発生した台風19号のときの経験を教えてください。)

—台風19号の時に小学6年生で、夜にすごい雨とか風が強くなってきて「避難してください」という放送が流れて、それを聞いて私はすごいびっくりしたし、どうすればいいか分からなくなって、パニックになってしまいました。

ですが、母がハザードマップを見てみて、「ここは高台だから避難しなくても大丈夫だよ」と言ってくれたので、家でどうやったら落ち着いて安心して過ごせるかということを考えていました。冷蔵庫とかにあるもので食べて過ごせたり、家で家族とコミュニケーションを取って安心して、その時の台風19号を乗り越えることができました。

(台風を経験する前は災害が起きたらどう行動するイメージでしたか?)

—とりあえず避難所に行けば、何かもらえるかもしれないし、何かしてもらえたらと思うっていました。

(日常でどんな防災の工夫をしていますか?)

—想像とかで、夜寝る前に、もしこういうことがあったらどうやって逃げようとか、避難バックには、何を詰めようとか、その詰めたらそれはどうやって活用するかとかそういったことをよく考えていて、もし本当に災害があったときにそれを実行できるか分から

ないけど、でも想像するだけでも少しそういう他のことに使えるんじゃないかなと思いました。

(ずばり防災ってどう思いますか?)

—私は防災に対して、正直ちょっと怖いイメージしかなくて、防災って言ってもどうせ怖いから、どうせ実行できないだろうなと思っていたんですけど、最近ちょっとしたことで「あ、これ防災になるな」とか、そういうことを考えていくうちに、怖いよりもわくわくする、楽しいって感じがします。

(2019年10月の台風19号のときの経験を教えてください。)

—私の家は多摩川の近くだったので避難所へ行きました。家族と話し合っ、氾濫する危険が高いということで避難することにしました。

(避難所には何か持って行きましたか?)

—このようなものを持って行きました。私のお勧めする役立ったものは3つあります。1つ目がマットレス、ロールマット。2つ目が電源タップ。3つ目がゲームや小説などです。

1つ目のロールマットは、私が泊まったところは学校だったので、床も冷たくて硬いのでロールマットがあることによって、あったかくて快適に過ごすことができました。

2つ目の電源タップは、停電になっていなかったら周りの人とも揉めないのすごく便利でした。持ってきている人も少なかったんで、これはすごい持って行くことをお勧めします。3つ目のゲームや小説なんですが、私の弟は小さかったんで暇にならないようにゲームや小説などを持って行きました。

はい、私の行ったところは学校だったので本などの貸し出しができるようになっていたんですけど、やっぱり自分の好きなものを持っていけるとというのが大きいと思います。スリッパは場所によって貸し出し用があるところもあるんですけど、私は弟はサイズが合わなかったんで、お子さんのいる家庭はスリッパを各自で持っていったほうがいいと思います。

この写真は夜、避難所で寝ているときの写真です。ちょうど床に敷かれている銀色のものがマットレスです。結構、床が硬くて寝られないという人が多かったんで、マットレスはすごく便利でした。持っていったタオルケットも丸めて枕にして使いました。ぐっすり眠ることができました。

(台風19号のあとに見直した備えはありますか?)

—結構、人の目が気になったんで、テントを買いました。あとロールマットを元々、2つ持っていたのですが、家族分あるといいなと思ったんで、さらに2つ買いました。あと水がたくさん入るもの、潰せるタンク、水の入るタンクを買いました。

(防災に取り組むようになったきっかけは何ですか?)

—私の両親は結構防災に積極的だったので、一緒に防災の備品などの備えているうちに自然と積極的になっていきました。

(普段から防災について考えていたことは役立ちましたか?)

—一番は落ち着いて行動できたということだと思います。日頃から、家が浸水してしまうというのは、すごく不安なことだと思うんですけど、いつも常にもしもの場合を考えながら生活することができていたので、落ち着いて行動できたと思います

「おうちでやってみよう！—マイ避難行動を即席チェックしよう」

ここでは、防災の専門家が作ったフローチャートを使って、台風・大雨からの、「避難の即席チェック」を試してみましょう。ぜひ、ハザードマップもあわせて確認してみてください。

仙台市には、2003年から市民の防災意識を高めるために防災減災アドバイザーが設置されています。初代アドバイザーを勤めた京さんにお話を伺いました。

Q. 今、私たちの学校では地震発生時にどのような避難行動をとるのかというのを一人ひとりに考えてもらうというプロジェクトを行っているのですが、東京で首都直下型地震が起きた際に、自分たちで身を守る手段としては、どのようなものがありますか。

—一番大切なのはいつどこで起きてもいいようにイメージトレーニングをしていただくということです。どこで地震にあってもいいようにいつも周りのもので身を守れるものをつき探すということです。

Q. 訓練や防災を実際に呼びかけるお仕事をされていると思うのですが、その際に意識していることや工夫していることは何かありますか。

—市民の人たちが備えやすいように、イメージできるように、モノを見てもらって対策のですね、家具の転倒防止のものとか、実際の1個ブロック塀の重さを見てもらうとか、そういうような具体的にイメージできるようなモノを提示して、見てもらって、色々考えてもらうということを工夫しております。

Q. 防災とかをする上でお勧めしたいこととかはありますか。

—楽しくですね、やれるようにしていただくのがいいと思います。

イメージすると、地震が大変だあ、という頭になると、気持ちも重くて何もしたくなくなるので、そうではなくて備えは楽しくやれるということで、自分で普段食べているものとかを余計備蓄したりですね、どんなものを準備したらいいかとかということを楽し

く考えられるような工夫をしていただくといいかな、と。楽しくやる工夫を考えてもらってます。

Q. コロナ禍における災害時の避難所での生活で重要になるポイントは何でしょうか。

—避難所というと、学校の避難所に我先に行くということになると思うんですけども、そういうイメージではなくて、是非、コロナのときには特に分散避難ということで知り合いの所とか家族の他にお住いであればそこに身を寄せたりということも、やれることもあると思います。それを考えていただくと。

予算が取れるのであれば、地震でなくて、何か大雨だとか台風が近づくと、ということがあれば、ホテルに家族で泊まってみて楽しむ、というのも一つの避難の方法だと思います。

また、どうしても決められた避難所に行く場合については、消毒だとかマスクだとか自分で準備して、そういうことを考えていただいて備えて、避難所を利用するようにしていただくというのが一番だと思います。

本日はありがとうございました。

—ありがとうございました。

「おうちでやってみよう！ - TOIRO ポーチを準備しよう・見直そう！」

小学生以来、カバンに入れっぱなしだった防災ポーチを見直していこうと思います。

TOIRO ポーチは「十人十色」からとっています。防災バックで必要なものは人それぞれなので、そういう思いを込めてつけた名前です。

定番のライトやホイッスルに加えて、コロナ禍で必要な消毒液が入っていました。

私は目が悪いので、ポーチにコンタクトケースを入れているのですが、久しぶりに見たら、なんと空っぽでした。今、見直したから良かったけれど、もし本当に非常時に中身が空っぽだったらとても困るだろうなと思いました。

見直すまでは忘れていたのですが、お母さんがくれたお守りが入っていました。見つけて思い出して、とても嬉しかったです。非常時にお守りなどの心の拠り所になるものを入れておくことはとても大切です。お守りだけではなく、何か安心できるものを入れておくといいと思います。

皆さんも、是非、TOIRO ポーチを作ったり直したりしてみてください。

「4. 災害時のトイレを知ろう・備えよう」

(BOUSAI ミニシアター「災害時のトイレを用意しよう！」)

ある日のことです。

「地震だわ、大変」

「避難所へ行こう。」

避難所にやって来ました。

「私、トイレに行ってくるね。」

「分かったわ。」

「気をつけて行ってきてね。」

トイレに並んでいると、

「ママ、これ使って良かったね。」

「そうね。」

「あの、それって何ですか？」

「携帯トイレって言って、すごく便利なんですよ。」

「へえ。」

あかりちゃんはトイレに並ぶのに疲れてしまい、戻ってきました。

「水飲んじゃうと、トイレ行きたくなくなっちゃうし、飲まなくてもいいかな。」

あかりちゃんは水も飲まずに寝てしまいました。すると誰かの声が聞こえてきました。

「ねえねえ、あかりちゃん。トイレも行かず、水も飲まずに寝てしまったの？」

「えっ、誰？」

「私はトイレの妖精だよ。なんであかりちゃんはトイレも行かず、水も飲まずに寝てしまったの？」

「だってトイレ汚いし、たくさん人が並んでたし、水飲んだらトイレ行きたくなくなっちゃうから。」

「それは逆効果だよ。水も飲まないでいると、エコノミークラス症候群などになって、命の危険になってしまう場合もあるんだ。」

「えっ、そうなの。でも水飲んだら、トイレ行きたくなくなっちゃうよ。トイレは汚いの使うしかないのか。」

「そんな時は、これ。携帯トイレー！ これは電気や水がなくても使える便利なトイレだよ。」

「へーそんなの良いものがあったんだ。使い方も簡単だし、私にもできそう。」

「しっかり水をとって、トイレに“行っトイレ”。

「んん、夢かあ。あれ、携帯トイレと水が置いてある。……トイレ行ってきます。」

皆さんも災害はいつどこで来るか分からないので、携帯トイレそして水を日頃から備えておきましょう。

(携帯トイレの使い方 ナレーションなし)

災害時のトイレ問題は、見落とされがちな問題ですが、命を守るためにもとても大切です。ここには3つの問題があります。

まず1つ目は、災害時にトイレの備えが足りないこと。

2つ目は、災害時に「トイレに行きたくない」と考えてしまう人が多いこと。

3つ目は、この問題に気づいていない、知らない人が多いということです。

災害時は断水してトイレが使えなくなったり、トイレ環境が悪化したりします。トイレに行く回数を減らすために水分や食事を控えることは、エコノミークラス症候群などの命の危険につながるのですが、そのことを「知らない」という人も多くいます。

私たちの学校では、宮城県でお話を聞く中でこの問題を知って、2015年から様々な活動をしてきました。皆さんも、モノと心と知識の備えの3つセットで、ぜひ周りの人に知らせてください。知らせるだけでも誰かの命を救えるかもしれません。

ではここで、エコノミークラス症候群を予防する運動を試してみましょう。エコノミークラス症候群は、車中泊のときも注意が必要です。災害時でもしっかり水分をとって、適度に身体を動かすことを心がけましょう。

(災害時のトイレ問題座談会)

「トイレ備えてる？」

「備えてる？」

「いや、全然」

「何回分くらい備えてる？」「えー、10回あるかなーくらい」「全然備えてない」

「災害時のトイレ問題結構、深刻で、使えないことが多いんだけど、どうする予定？」

「意外と、キッチンペーパーとか使えるんじゃないかって思った。ティッシュペーパーよりも素材が固いから」

「うちは犬飼ってるから、犬のペットシートとか結構、吸収するんだよね。」

「あー確かに。ネコ飼っている人とか、あの砂みたいな、あれとかでもいけそうだね」

「確かに」

「あれなら臭くはなさそう。」

「臭くならないまで考えると、結構難しいけど、普通に考えたらビニール袋とか、普通に使えるけど。」

「タオルとか？紙がいっぱいあれば」

「新聞紙とか意外と水吸うんだっけ？」

「吸いそう」

「おうちでやってみよう！命を守るトイレアイデアを出し合おう！」

災害時にトイレの材料になりそうなものを考えてみましょう。身の回りを見渡して、色々なアイデアを出してみましょう。防災では「想像力」が大事です！

(エンディング)

(BOUSAI ミニシアター「一歩踏み出そう」)

東日本大震災の「釜石の出来事」を知っていますか？ 日頃から訓練していた成果で、中学生が津波からの避難行動をとり、地域の人もそれに続いて避難しました。

数人の行動、避難への第一歩が大勢の命を救うことにつながります。

「命を守る第一歩踏み出す最初の人になろう」

見方が変わる、「新感覚防災」を提案する P・F・F プロジェクト。お楽しみいただけましたでしょうか。

今、災害は「日常の中で時々起こる非日常」と言えるかもしれません。

だから防災を特別なこと、ではなく日常の中で楽しく続けられるものにしたい、という思いで、私たちは活動しています。

また、度々出てくる「Have a nice Bousai day!」とは、皆が日常の中で楽しく防災に取り組み、気軽に声をかけられるようになってほしい、という思いから生まれました。

災害から命を守る防災も、前向きに取り組む方が、楽しく気軽に続けることができます。自分の命、大切な人の命を守るために「今、動こう。未来のために」。